

**東京都市大学校友会東京支部発足記念**  
**東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター教授**  
**工学博士 目黒公郎氏講演会のご案内**

東京都市大学校友会東京支部長 森下修至

謹啓 皆様には日頃東京都市大学校友会の活動にご協力を賜り心より御礼申し上げます。

全国の校友会発足から10年経過し、東京支部発会をという本部の要請を受け、今年2月、約70名の皆様に御参集いただき創立を祝いました。COVID19の災禍は収束の兆しを見せ、人と人を結ぶ集まりが徐々に復活していますが、そのような中、校友会東京支部においても皆様にインパクトを与えるような催しを開催したいと検討してきたところです。

このたび幹事の方々のご努力により、本学の誇るべき卒業生であり、構造工学・地震工学・維持管理工学がご専門で都市防災工学の世界的権威となられている「東京大学大学院目黒公郎教授」による講演会開催が実現することになりました。

今年2023年は「関東大震災(1923年9月1日午前11時58分、震源地:神奈川県西部)」が東京だけでなく関東全域に大きな被害をもたらした年から数えちょうど100年にあたる年となります。様々な報道でもご存じの通り、「首都直下地震」、「南海トラフ巨大地震」、「千島海溝・日本海溝の地震」、「活断層の地震」などが今後30年以内に起こると言われています。

10年前私たちは東北大地震の災禍を目の当たりにし、その有様は今も心に残り、政治、社会生活、国際関係にも大きな影響を与えています。

そのような時期に今回「目黒公郎教授」に講演いただく機会を得たことは全世界に在住される卒業生だけでなく現役学生の皆様にも大変幸せなことだと思います。本学以外の社会の皆様にも共有していただくような話題であると考えております。

下記日程にて開催いたしますので、卒業生・在校生の皆様にはこぞってリアル参加戴けるようお願い申し上げます。講演会終了後は目黒教授を交えて懇親会も開催致します。卒業世代を超えて卒業生と在学生それぞれの「絆」を結ぶ稀有な機会であると存じますので全国から皆様のご参加を期待してご案内申し上げます。会場の都合により今回のリアル出席者は50名迄とさせていただきますのでお早めの申し込みを御願ひ申し上げます。(全国の皆様、一般の皆様はzoomで参加が可能ですので別紙にてお申し込みください。)

記

開催日 2023年12月3日(日曜日) 14時30分から16時30分

場 所 東京都市大学渋谷サテライト教室

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-10-7 五島育英会ビル B1F

Tel: 03-5456-8571 Fax: 03-5456-8572 アクセス: JR渋谷駅南口より徒歩5分

意見交換会 17時00分から18時30分(講演会と同じビル内・参加費4,000円)

\*申込期日 2023年11月15日(水曜日)

## 講演タイトル

# 関東大震災から 100 年：今後の我が国の巨大災害対策のあるべき姿

### 講演概要：

今年、2023 年は関東大震災を引き起こした大正関東地震からちょうど 100 年の節目の年である。関東大震災の被害や影響は、延焼火災や構造物被害、流言飛語の問題などを中心として語られることが多いが、津波や土砂災害も過去の他の震災と比べて十分大きな規模である。また、過去 100 年間の市街地の大幅な拡大や長周期構造物の普及による新たな問題が指摘されることもある。震災からの復旧・復興については、後藤新平の帝都復興計画や復興院を中心に議論されることが多い。



しかし、このような議論だけで十分だろうか。今回の講演では、関東大震災が発生した時代背景やその後の我が国の歩みを俯瞰した上で、関東大震災が我が国に与えた影響について考察する。重要なポイントは、関東大震災が「大正デモクラシー」の自由な雰囲気を一気に変え、わずか 22 年後には民間人を含め 300 万人を優に超える死者を出す第二次世界大戦の敗戦への転換点になったということ。この事実に基づいて、発生が危惧されている首都直下地震や南海トラフなどの巨大地震災害や地球温暖化を背景に甚大化、頻発化する気象災害対策として、私たちは何に注意すべきなのか。

私の結論は、防災のみならず、現在、我が国が抱える様々な課題に関して、その本質的な原因のほとんどに、人材と機能や財産の首都圏への極度の集中が深く関わっているということ。そして、この状況を生んだ最大の原因は明治政府の地方人材の登用法にある。200 年以上にわたって鎖国していた我が国は明治維新からわずか 30 年ほどで、学術をはじめ多くの分野で世界のトップに並ぶが、その背景には何があったのか。江戸時代から明治維新を経て、我が国はどのように発展し、その過程でどんな課題をなぜ内包するようになったのか、についての理解がなくては、我が国の現在、そして将来の問題は解決できない。

人間は自分が想像できないことに対して備えたり、対応したりすることは絶対にできない。今後の巨大災害対策の立案や実施においても同様であり、関東大震災の全体像の把握と今後の国内外の社会状況の変化の適切な予測に基づいたバックキャスト的な課題解決策の検討が必要だ。これが将来の被害軽減と災害を契機として社会全体が誤った方向に進まないために不可欠であることを、私たちは再認識すべきだ。その際には、現在の少子高齢人口減少や厳しい財政的な制約を忘れてはいけない。今後のわが国の巨大災害対策は「貧乏になる中での総力戦」となる可能性が高く、そのような状況では、意識改革が必要になる。講演では、「コストからバリューへ」、そして「フェーズフリー」をキーワードに、今後の我が国における持続可能な災害対策の推進法についても私見を述べる。

目黒公郎、出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』 (2023/09/14 01:23 UTC 版)

## 略歴

福島県立会津高等学校 33 回生

1986 年 武蔵工業大学 (現・東京都市大学) 工学部卒業[2]

1988 年 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了

1991 年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了

1991 年 東京大学生産技術研究所助手

1995 年 東京大学生産技術研究所助教授

2004 年 東京大学生産技術研究所教授

2006 年 東京工業大学特任教授 (兼務)

2007 年 東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター長

2008 年 放送大学客員教授 (兼任)

2010 年 東京大学大学院教授 (兼務、情報学環総合防災情報研究センター)

2015 年 日本地震工学会会長

2016 年 内閣府本府参与

2018 年 地域安全学会会長

2020 年 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長

2020 年 日本自然災害学会会長

2020 年 東北大学客員教授

2020 年 香川大学客員教授

## 委員会活動

日本学術会議連携会員 (2012 年 12 月～)

日本自然災害学会理事 (1998 年～) 兼「学会賞審査委員会」委員 (2008 年 7 月～)

同学会東日本大震災特別委員会委員 (2011 年～)

地域安全学会理事 (2001 年～)

日本予防医学リスクマネジメント学会副理事長 (2011 年～)

国際予防医学リスクマネジメント学会理事 (2011 年～)

日本活断層学会理事 (2012 年～)

土木学会地震工学委員会幹事 (2008 年 4 月～)

同学会日本土木史編集特別委員会委員、「地震工学」部門委員長 (2008 年 4 月～)

国際地震工学会 (IAEE) 世界地震安全推進機構 (WSSI) 理事 (1995 年～)

内閣府社会還元加速プロジェクト・タスクフォース専門委員 (2008 年～2012 年)

世界銀行防災グローバル・ファシリティー有識者委員会委員 (2007 年～2010 年)

財務省地震保険制度に関するプロジェクトチーム委員 (2011 年～)

総務省 G 空間×ICT 推進会議委員 (2013 年)

国土交通省大規模地震・津波対策アドバイザー会議委員 (2013 年 7 月～)

国土交通省・農林水産省水門・陸閘等の効果的な管理運用検討委員会委員長 (2012 年 12 月～2013

年3月)

#### 受賞歴

- 1992年 土木学会論文奨励賞
- 1993年 日刊工業新聞技術・科学文化図書大賞
- 1994年 土木学会出版文化賞
- 2002年 地域安全学会論文賞
- 2006年 地盤工学会「土と基礎」年間優秀賞
- 2007年 土木学会国際活動奨励賞
- 2007年 東京大学総長賞業務改善
- 2010年 文部科学大臣表彰科学技術賞
- 2017年 日本学術振興会・科学技術研究費審査委員表彰
- 2019年 地域安全学会技術賞
- 2020年 日本建築学会教育賞
- 2021年 復興デザイン会議・最優秀論文賞

#### 著書

- 『巨大地震・巨大津波 一東日本大震災の検証』（共著：朝倉書店）
- 『大地震・火災・津波に備える 震災から身を守る52の方法』（監修：アスコム）
- 『地域と都市の防災』（共著：放送大学教育振興会）
- 『都市と防災』（共著：放送大学教育振興会）
- 『間違いだらけの地震対策』（旬報社）
- 『緊急地震速報－揺れる前にできること』（監修：東京法令出版）
- 『大地震 死んではいけない!』（監修：アスコム）
- 『じしんのえほん（絵本）』（監修：ポプラ社）
- 『ぼくの街に地震が来た（漫画）』（監修：ポプラ社）
- 『東京直下大地震生き残り地図』（監修：旬報社）
- 『地震のことはなそう（絵本）』（監修：自由国民社）
- 『被害から学ぶ地震工学－現象を素直に見つめて』（共著：鹿島出版会）
- 『人とわざわざ』（部分執筆：エスビービー）
- 『今日からはじめる地震対策』（単著：東京都不動産関連業協会）
- 『目で見る自然災害サバイバルハンドブック』（監修：法研）